鹿児島中央看護専門学校 3 年課程看護科　令和 5 年度学校自己点検・自己評価結果

（4 ：とても良い　3 ：概ね良い　2 ：不十分　1 ：全くできていない）

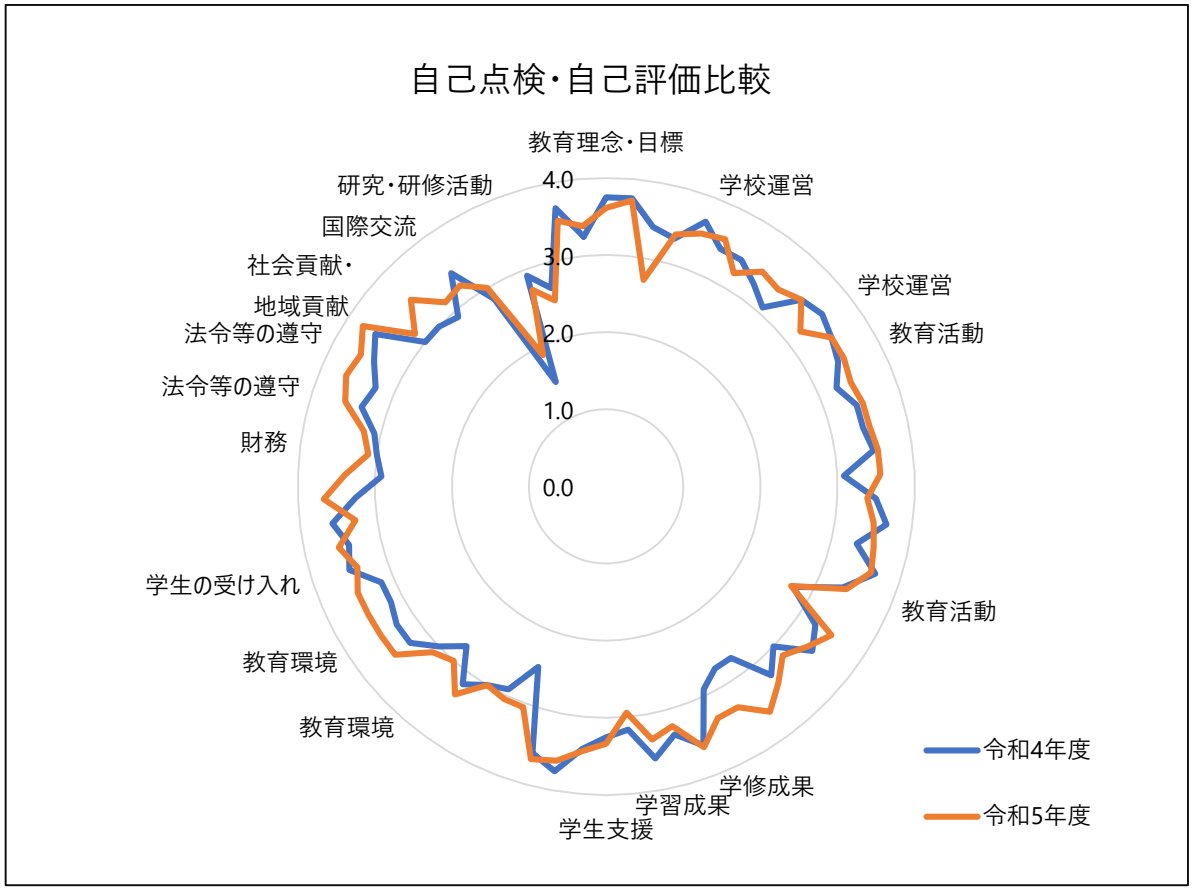
評価項目		評価	考　察	今後の課題
教育理念・目標	1.教育理念・教育目的・卒業生像に一貫性があるか	3.6	令和 4 年度から新カリキュラムを運用しており、本校の教育理念、教育目的は、新カリキュラムの主旨に十分対応し、慈愛会の理念も含めて一貫性があることを再認識、再共有している。また、教育理念、教育目標をもとに本校のディプロマポリシーを明確にし、教育課程を編成できた。今後も教職員がしっかりとベクトルを合わせて教授活動につなげることが大事である。	令和 6 年度も一貫した教育理念、教育目標をもとに設定した 8 つのディプロマポリシーを目指して教職員一同がベクトルをあわせ教育活動に反映していく。
	2.教育理念・教育目的は、学校における看護基礎教育の特徴を明確にしているか	3.7		
	3.社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想があるか	2.7	ICT 環境整備や放送大学とのダブルスクール制、シミュレーターを用いた臨床判断能力の育成環境の整備など社会のニーズを踏まえて支援している。また、地域体験を積極的に取り入れ、地域に根差した看護者を育成する試みを行っている。 今回、評価が下がっている理由として、学校移転計画が具体化していないことが一番の理由として挙げられている。また、少子化の中、県内の看護師養成所の閉校も増えてきている。その中で選ばれる学校になるためにはどうすればよいのか、3 年課程として生き残っていくためにどうすればよいのか再検討していく必要がある。	少子化の中、選ばれる学校にしていくために 3 年課程として生き残っていくために職員間で意見交換したり、学生からの意見も取り入れたりしながら、学校の在り方を再考していく。
	4.教育理念・教育目的・卒業生像・学校の特徴等は、学生・保護者・関係施設等に周知されているか	3.4	学生便覧に明記し、ホームページ、オープンキャンパス、高校訪問等でも説明していて、学生や保護者へは周知されている。学生には本年度も入学オリエンテーションを行い、8 月の学生アンケートでは 1 年生、2 年生 98%、3 年生 95%が「理解している」「まあまあ理解している」と答えている。講義、実習での発言の中でも「慈愛の心」というワードが学生、教員からよく出てくるようになっており常に意識できていることがわかる。	今後も入学説明会やオープンキャンパス、学校訪問で周知を図ってきていく。
学校運営	5.教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	3.5	学校運営については、本校は公益財団法人慈愛会の中の一施設として健全に運営されている。事業計画は、法人の方針、学校関係者評価会で頂く委員の皆様の意見や学校事業計画の PDCA に基づき、計画を立て展開している。また進捗を職員会議で報告し共有している。	令和 6 年度も事業計画に沿ってカリキュラムを運用していく。
	6.運営方針に沿った事業計画が立案されているか	3.6		
	7.運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	3.2	学校運営会議や教職員会議等は学則、その他の規定等において明文化され、意思決定の機関として機能している。困難な事例もあるが、全員で共有しながら意思決定している。	今後も学則やその他の規定が職員間で共通理解できるようにしていく。
	8.人事、給与に関する制度は、整備されているか	3.4	人事、給与に関する制度は、就業規則や給与表で整備されている。ラダー取得後の手当に関しては、本校の強みである。それを活用した支援を継続していく。	教職員が働きやすい職場となるように今後も意見を集約し改善していく。
	9.教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.4	教務・財務等の組織整備は組織図、業務分担表、業務基準規程等に明文化、意思決定システムの整備がされており、職員の役割の明確化、業務の指針になっている。もう少しコミュニケーションが必要との意見もあるため、必要な際に共通理解できるような働きかけをしていく。	次年度も職員全員が共通理解できるよう働きかけをしていく。
	10.関連施設や地域社会等のニーズに対応する体制が整備されているか	3.5	関連施設や地域社会のニーズに対応するため各種団体に参加し、情報収集や研修の機会を得ている。また関連施設の協力、連携が図れることは本校の強みである。定期的な管理者会議、実習指導者会議等への参画により、学校の状況を報告し、また、臨床現場の状況もタイムリーに把握でき、教員間で共有している。更に鹿児島県看護教育協議会、看護協会、看護連盟等での研修会に積極的に携わり、教育活動に活かしている	R6 年度は、鹿児島県教員養成講習会に講義・実習等での協力をしていく。

評価項目		評価	考　察	今後の課題
学校運営	11.教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.2	本校の教育活動は、ホームページや SNS 等で学生の学習の様子、行事や教育自己評価、学校関係者評価、シラバス等も公表し、高等学校訪問やオープンキャンパス等でもパンフレットを使用して周知している。しかし、若年層に向けた SNS 等のツールを活用していないことが意見として多くあった。個人情報保護を考慮しながら活用していく必要があると考える。	SNS のツールを活用し、教育活動が周知できるようにしていく。
	12.情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.5	マニュアル整備、共有ファイルや Teams を活用した情報システム化（成績入力システム、出席管理のシステム入力、Teams での学生の健康管理、情報共有等）を継続して進めてきている。教務事務を配置し、タスクシフティング推進をして、これまで専任教員が担ってきた多くの事務的作業の移譲が進み効率化が図れている。	ICT を進めながらも、でてきた課題の解決に取組み、業務の効率化や教育活動の充実を図っていく。
教育活動	13.教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.5	学生便覧、シラバス、年間計画（講義計画、実習配置）など、教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている。 本年度までは、新カリキュラムと旧カリキュラムが混在する中で、進度に問題がみられることもあり、その都度調整を行った。また、新カリキュラムが確実に運用されているか、教育活動の評価をしっかりと行っていく必要がある。	次年度は 3 学年新カリキュラムとなるため、非常勤講師への説明を確実に行い調整していく。
	14.教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.4	学生が主体的に学べるように学年ごとの学習目標や 学年目標を立て、到達レベルに達するように取り組んでいる。また、各学年の年度初めのカリキュラムガイダンスでは、卒業時の到達目標を確認し、3 年生の 4 月と卒業時に到達度調査を実施している。新カリキュラムにおいては、ルーブリックを用いて中間評価、学年末評価を行い自己の課題に気づけるような取り組みをしている。 また、1 日 3 限の時間割になるように調整し、できるだけ学生の自己学習時間を確保できるように計画している。 令和 6 年度も学生が到達レベルを意識して主体的に学習に臨めるように、時間や学習環境を調整し支援していく。	
	15.学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.5	教育課程の構造図、教育課程の考え方、カリキュラムの順序性など体系的に編成されている 。	今後もカリキュラムマップの周知、活用をすすめていく。
	16.実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	3.5	令和 5 年度も実践的な教育として実習でのポートフォリオ学習、災害時トリアージ演習、シミュレーション学習、オスキーを活用した臨床能力育成のための統合看護技術演習などを継続して行い、その都度評価しながら次年度に繋がる課題を見出している。さらに、各教員の担当講義のねらいや授業方法、演習の工夫点などの学習会を開催し、他の教員の取り組みの共有がはかれている。この取り組みはビジョンをそろえ教育の質を上げることにつながっている。本校ならではの統合演習（臨床看護師の参加）や倫理カンファレンスの取り組みは継続していく。	新カリキュラムにおいて学びをつなげていく科目があるため教員間で共有しながら、教育方法を工夫し実施していく。
	17.実践的な看護教育演習・臨地実習等. が体系的に位置づけられているか	3.6	基礎看護技術を確実に身につける演習ができている。臨地との連携がとりやすく協力的環境の中で学ぶことができている。	シナリオ、アンモデルなど活用しながらシミュレーション教育を全教員で取組み学生の充実した学びにつなげられるようにしていく。
	18.授業評価の実施・評価体制はあるか	3.6	本年度も「講義」「演習」「実習」の授業評価に取り組んだ。評価は全項目 4.0 から 5.0 の範囲にあり高い評価であった。 授業評価は、終講が重なった際などの投稿数に課題があったが、評価項目、内容の見直しを行うとともに、学生にその都度投稿の案内を行うことで多くの学生が評価に参加できている。	授業評価の内容、項目の見直しを行い次年度も継続していく。

評価項目		評価	考　察	今後の課題
教育活動	19.成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	3.4	成績評価、単位認定の基準の明確化については、学則や履修規程、実習要項に明示しており、実習のルーブリックも効果的な評価基準の見直しを毎年実施している。実習評価基準（ルーブリック）も毎年見直しをしている。今後も学生の学びの状況を踏まえながら、公平な評価基準となるように検討していく。	新カリキュラムの運用の中で実習のルーブリックの見直しを行っている。
	20.カリキュラムの見直しは定期的に行っているか	3.5	令和 4 年度から新カリキュラムの運用をしている。本年度もカリキュラム委員会を開催し、新カリキュラムの運用状況を検討するなどしてきた。今後も教育課程について定期的に検討をし、教育内容の精選、教育技法等も見直しをしていく。	R6 年度は全学年新カリキュラムの運用になる。実施しながら、検討、見直しを行っていく。
	21.臨地実習の計画・実習指導の見直しは定期的に行っているか	3.6	臨地実習計画、実習指導の見直しについては、各科目の担当者を中心に実習関連会議で計画的な検討、見直しを実施している。 令和 5 年度までは新カリキュラムと旧カリキュラムの実習が混在していたため、臨床指導者、スタッフの混乱が無いように、指導者会議等で説明を行ってきた。令和 6 年度は、新カリキュラムの 3 年次の実習が開始となるため臨床指導者にその趣旨をしっかり伝えて効果的な実習が行えるようにしていく。	新カリキュラムの 3 年次が開始されるので臨床としっかり連携して効果的に実習が行えるようにしていく。
	22.年度初めにカリキュラムガイダンスを行っているか	3.6	令和 5 年度も学年でカリキュラムガイダンスを行った。新カリキュラムにおいて科目間の関連などその都度ごとの周知できるようにしていく。	
教育活動	23.学生便覧は内容構成は工夫して作成されているか	3.4	学生便覧の内容構成については工夫し、作成している。 1 年生の学生アンケートでは、85％の学生が学生便覧やシラバスを活用していると回答している。iPad で学生は見ることができるようになっているが、教員に聞いてくる学生も多い。必要な際に必要な内容を学生が確認できるように教員からの働きかけは続けていく必要がある。	学生便覧を教室にも 1 冊ずつ配置し、閲覧できるようにする。
	24.学生便覧は学生が活用しているか	2.7		
	25.シラバスが作成され、学生に説明しているか	3.5	昨年度同様、カリキュラムガイダンスで科目間の関連の理解を含め説明するとともに、シラバスの冊子を用いて科目開講時に学習目標、学習内容を確認し説明をした。シラバスも ipad に掲載しているため	
	26.科目に合わせて、専門性を発揮できるように担当教員専任・非常勤を配置しているか	3.3	関連施設の協力を得て、科目に合わせた専門性を発揮できる講師を配置できている。	
	27.教員の講義時間の配分は経験年数・授業内容を考慮したものになっているか	3.2	教員の年間講義時間は経験や技術演習担当の状況を踏まえて計画している。養成所指定規則ガイドラインに基づく専任教員の講義時間数（15 時間/W）の基準は維持している。各領域看護学、専任教員必要数は基準を満たしているが、もう少し教員個々のスキルアップに努める必要がありさらに支援していく必要がある。	
	28.資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.4	国家試験対策は、3 年間を通して支援できるパスに準じて、学年ごとに学習支援計画、模擬試験等が計画的に時間割に入れられ、実施している。国家試験強化学習も全員で支援する体制は継続でき、効果を上げている。 また、放送大学との併修制度も導入し、学生の資格取得の道を拡げることができている。	
	29.看護基礎教育の授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.6	専任教員有資格者は 100％である。今後も教員個々のスキルアップに努める必要があるとともに、支援していく必要がある。	教員一人ひとりのキャリアアップと教員確保への働きかけをする。

評価項目		評価	考　察	今後の課題
教育活動	30.看護基礎教育に適した教員（専任・非常勤を含む）を確保するためのマネジメントが行われているか	3.3	年度途中に 3 人の教員を採用し、教員の人員は充足した。非常勤講師も確保できた。関連施設と連携し、現場からの異動システムが機能するように働きかけを継続していく必要がある。	
	31.教職員の指導力育成や能力開発などのための取り組み等が行われているか	3.3	年 3 回の目標面接、人事考課の実施や必要時面接を実施している。更に看護教員キャリア開発プログラムが本格運用され、前述の通り、対象者全員がラダー認定申請をしている。 慈愛会学会では研究発表 1 題、その他計画的な研修参加等もできている。更に、教員学習会 1 回/月の開催、研究授業の取組 1 名、その他全員がオンライン等を活用した多くの研修に計画的に取り組むことができた。ひとり一人の教員の支援は、時間をかけて対応していく必要を感じているとともに、キャリア開発ダラーが教員の成長に合ったものになっているかを再度検討し見直しを行っていく。	キャリア開発ラダーが大事にしたい教員像や必要な資質、能力を含んだものになっているか検討を行う。また、目標面接時にそれぞれの教員が自己の成長に合わせて目標設定できるように支援する。
学修成果	32.国家試験合格率の向上が図られているか	3.6	国家試験合格率は 97～100％の合格率を維持している。国家試験対策は、3 年間を通して支援できるパスに準じている。支援体制は整備され、学生の意識も高い。	
	33.退学率・休学率の低減への取り組みをしているか	3.2	本年度は、休学 3 名、うち復学者 1 名。退学者 1 名。学年による細やかな支援で休学・退学の減少に繋がっている。定期面接、保護者との連携、定期的なストレスチェック、カウンセリング案内の実施を行っている。	
	34.卒業生の活躍及び評価を把握しているか	3.3	卒業生サポートキャンパスの開催時、実践力評価アンケート調査の実施を 2 年間継続、今後評価を行う予定である。	
学習成果	35.卒業生の活動状況を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.9	関連施設、臨床教員と連携し、卒業生の状況の把握ができている。また、サポートキャンパスを 1 年目、3 年目看護師を対象に実施している。そこででてくる卒業生の意見を反映し教育内容に追加している。今回、関連施設以外の就職先からの声を聞きたいとの意見があった。関連施設以外の卒業生の就職先から卒業生の状況や意見をもらい、今後の教育活動に活かしていくことも大切と考える。 その他、総合看護技術演習で卒業生が看護師役や患者役として参加協力をしてもらっている。	関連施設、臨床教員とさらに連携し、卒業時の技術確認など実施していく。また、関連施設以外の就職先に卒業生の状況等、意見をもらい、教育活動に活かしていく。
学生支援	36.進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.3	殆どは慈愛会に就職するため、慈愛会外の施設を希望する学生の支援も行う。各施設の募集パンフレット等は学生がいつでも見られるようにしている。	4 月に就職オリエンテーションを行い、支援していく。
	37.学生相談に関する体制は整備されているか	3.4	学年担当が心理面のサポートをする他、カウンセリング案内も定期的に行い対応している。ご意見箱設置の設置をしている。カウンセリング回数は減少している。	
	38.学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3.6	関連施設の奨学金制度、公的奨学金制度など定期的に情報提供し、支援体制は整備されている。また、社会人対象の専門実践教育訓練給付金も多くの社会人学生が活用している。更に放送大学とのダブルスクールで学ぶ学生には節英会もあり、経済的支援に繋がっている。	
	39.学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.7	教務主任や実習担当主任、事務長を中心に、計画的に健康管理を実施している。小児感染症や B 型肝炎ワクチン、インフルエンザ等の接種指導を実施した。結果、学生の安全を守ることができた。また心理カウンセラーとの連携も図り、心の健康にも早期に対応できる体制がある。	
	40.課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.1	徐々に課外活動ができる状況にはなってきているため、様々なイベントやボランティア活動を支援しながら自主的な活動につながるように支援していく。	R 6 年度は、活動が出来るように支援していく。

評価項目		評価	考　察	今後の課題
学生支援	41.学生の学習環境への支援は行われているか	3.1	学校ハード面の課題はあるが、ICT 環境整備、本年度は、シミュレーション機材の充実によりシミュレーション室を確保でき、学生の効果的な学習につながっている。 演習物品の老朽化、数不足等もあるため、必要なものを整備していく。	シミュレーション室の充実、物品の購入等行い整備していく。
	42.保護者と適切に連携しているか	3.0	学生は 18 歳成人となってはいるが、支援の必要な学生は保護者と連携を図りながら協力をもらっている。	
	43.卒業生への支援体制はあるか	3.3	卒業後も多くの学生が訪問してくれており、職員は就業後の様子やキャリアアップの悩み、私的な相談などにも一先輩として関わっている。前述の卒業生 1･3 年目のサポートキャンパスは必要とされており、次年度も計画している。	
教育環境	44.施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.0	ハード面で難しいところはあるが、ＩCT 環境整備、シミュレーション学習環境は整備されている。 職員の評価では、昨年同様、更衣室・トイレ等が不足する。演習室が狭い。図書室が遠く利用が難しいなどの意見が多かった。	シミュレーション室を更に整備し、学習環境を整えていく。
	45.防災に対する体制は整備されているか	3.1	防災訓練は年 1 回実施し、マニュアルが整備され、学生一人ひとりに避難用グッズも準備している。今後、防災マニュアル、備蓄等含め再検討していく。	BCP 作成を行う。
	46.臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	3.5	臨地実習指導者の配置、適数を満たしている。また、定期的な各施設の実習指導者会議の参加継続、年 2 回の合同実習指導者会議等で学生支援について共有している。 部署によっては指導者不在の病棟もあるが、教員は臨床指導者の協力が得られていることを高く評価している。様々な背景を抱える学生が増えていることからさらに、連携を密に図る必要がある。	
	47.臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしているか	3.5		
	48.臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしているか	3.5		
	49.臨地実習指導者と教員の協働体制を整えているか	3.5	月 1 回の実習指導者会議、年 2 回の全体実習指導者会議、教員・指導者合同研修会で情報交換し、日々の実習指導の中で協働できるように体制を整えている。さらに臨床教員とも連携し、体制を強化している。	
学生の受け入れ	50.入学選考試験の種類をわかりやすく明示しているか	3.4	入学選考試験の種類、選抜方法は明確になっている。また選抜方法も明確になっている。しかし、学生の定員数確保が難しくなっており、本年度から 2 次、3 次試験を実施している。まずは、学校の存在を知ってもらうことが大切になってくるため、若年層の活用度の高い SNS での情報発信なども必要と考える。 学校ホームページ、オープンキャンパスは、新入生やオープンキャンパス参加者の意見を参考に内容を毎年、検討している。オープンキャンパス参加者が入試につながっているため、できるだけ参加者を増やせるようにしていく。次年度のオープンキャンパスは、時期を早めたり、回数を増やしたりして幅広く参加してもらえるように取り組んでいく。	学生確保につながる募集要項の作成や募集活動を今後も実施していく。 学校周知活動として関連病院施設にポスターの掲示等検討していく。 学生広報委員を作り、SNS での発信等を行い募集活動につなげていく。
	51.入学者選抜の方法は明確になっているか	3.6		
	52.学生募集の広報には志願者の知りたい情報を網羅しているか。	3.3		

評価項目		評価	考　察	今後の課題
学生の受け入れ	53.志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされているか	3.7	志願者・合格者等の推移とその評価も行われている。 しかし、推薦入学出願者は 17 名（昨年 27 名）減少し、一般入学出願者 27 名（昨年 26 名）であった。令和 6 年度入学者定員の確保できていない。さらに受験者数減少傾向は進んでいる。	少子化の中での学生確保は重要な課題でありその中でもアドミッションポリシーにあった学生を入学受入れできるように入試の形を検討していく。
	54.選抜方法と学生の状況について検討しているか	3.4	指導困難学生が少なくない。今後はさらに、そのような学生が増えることが予測されるため、しっかり評価し検討していく必要がある。	選抜方法、試験科目など今後も検討していく必要がある。
財務	55.教職員は学校がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解しているか	3.1	適時に経済状況について会議等で共有している。（電気料金の高騰等）今後も教職員が組織の一員としてマネジメントの基本である「ヒト」「モノ」「カネ」を意識して行動できるよう、情報の共有等を行っていく。	
	56.教職員はそれぞれの観点から財政について考え行動しているか	3.2		
法令等の遵守	57.法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.6	本年度は、県くらし保険福祉部医師・看護人材課看護係の指導調査を受け、学生定員超過、1 日あたりの授業時間、1 週間当たりの授業時間超の指導があり書類調査にはなったが改善し、適正な運営ができている。	
	58.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7	個人情報保護管理規程が作成されており、学生オリエンテーションや実習前、その他必要時に指導している。 今後も情報リテラシーや SNS の功罪等も学生に分かりやすく指導し、倫理に即した行動ができるように支援していく。 教員は個人情報保護に関する意識は高いと思われるが、一人ひとりの管理手法まで確認できていないところもある。	
	59.自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.6	自己評価で課題となった内容は次年度の事業計画に具体的に追加し、課題の改善に努めている。職員会議、学校運営会議、学校評価委員会等で協議している	
	60.自己評価結果を公開しているか	3.8	平成 23 年度から教育自己点検・自己評価、令和元年度から学校関係者評価を開始しその結果を公開している。	
社会貢献・地域貢献	61.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.2	看護協会や外部からの講師派遣要請への協力は積極的に行っている。また、慈愛会関連施設、看護部支援室への学校施設・備品の貸出などを実施している。	
	62.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.5	少しずつボランティアが再開され、学生も積極的に取り組んでいる。街頭募金、鹿児島マラソン、障害者スポーツ大会に参加できた。昨年度同様、献血の協力も行っている。	
	63.地域ニーズに適正かつ継続的に貢献しているか	3.2	R5 年度は県内施設への就職率 95％であり、地域への貢献は高い。	
国際交流	64.国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか	3.2	国際的な視野を広げるための授業科目として国際看護があり、非常勤講師にて学生は多様な視点で学べている。しかし、学生の卒業時到達度の評価では国際的な視点が低い。ネット環境は整備されており、インターネットを通じて国際的視点を学べる環境はある。	体験学習など学生が国際的なところや社会のニーズなどに視野が広がるような学習支援を検討していきたい。
	65.国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えているか	3.0		

評価項目		評価	考　察	今後の課題
国際交流	66.海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えているか	1.9	入学資格には問題ないが、実際の受け入れがないため、体制の評価が難しい。	
研究・研修活動	67.教員は研究活動に取り組んでいるか	2.7	本年度は 1 例、倫理審査受け実施中、慈愛会学会で発表予定である。	さらに他の学会等でも発表できるように支援していく。また、委員会を中心に各教員が研究活動に取り組める環境を作っていけるように支援していく。
	68.教員の研究活動を支援する体制があるか	2.5	研究委員会を立ち上げ、1～2 例/年、慈愛会学会で発表している。	
	69.教員は年一回以上研修に参加しているか	3.5	教員の専門領域、経験年数を基に研修計画を立て、参加している。WEB 研修を含め看護協会での研修等、多くの研修に参加できた。	
	70.研修で学んだことを教育に還元し活用しているか	3.4	教員会議等で情報共有している。それぞれの教員がそれぞれの教育場面で活用している。